

人民元とレンジ相場

人民元がレンジ相場から外れた。ドル人民元は CNH（オフショア）と CNY（国内）とも 3 月中旬頃から 7.05 から 7.15 のレンジ相場に入った。だが今週初めレンジの下限を切ってきた。前週末の 7.06 台から週初に 7.01 台へと人民元は急騰した。（ドル人民元は下落）ちなみに直近では 7.02 水準で推移している。

この背景としては次のような点が考えられる。

- 1) 中国からの資本流出が続かなかった。以前ドル人民元が 7.0 を上回ってきたときは資本流出の拡大が懸念されたが、規制もあり大きな流れにならなかった。実際に外貨準備もドル安で他通貨部分のかさ上げや運用益があるものの、ほとんど減少していない。
- 2) 人民元安の一因だった米中貿易摩擦がエスカレートしなかった。トランプ政権の対中強硬姿勢が大統領選を有利に運ぶための戦略であることが浸透したことやその戦略が本当に再選に役立つか疑念が生じてきた。
- 3) 人民元安の必要性が薄れてきた。景気浮揚のために当局は人民元安を放置してきたが、ここにきて経済指標も改善するものが増え、第二四半期の GDP もプラスが見込まれるようになった。
- 4) ドル指数の下落傾向が示すように全般的なドル安相場が続くようになった。ドル金利の低下とその長期化が続く見通しにより、金利面で人民元はサポートされる。

このように堅調なドル人民元相場は、国家安全法の成立で一国二制度の基盤が損なわれた香港ドルの相場の安定にも寄与している。香港からの人材や資本の流出が懸念されているが、今のところドル香港相場は 7.75 から 7.85 の変動幅の下限（香港ドルの上限）水準で推移している。

これは香港ドルの金利が米ドル金利を上回っていることや中国からの資本流入が続いていることが要因だ。つまり香港からの目立った資本流出は抑制されている。

中国は管理変動相場制、香港は固定相場制といずれも管理色が強い為替制度を採用している。中国当局は資本取引規制を、香港当局は利上げを主な武器として大きな資本流出の抑制に備える。

今後人民元相場は6.95から7.05の新たなレンジで取引されるのではないだろうか。